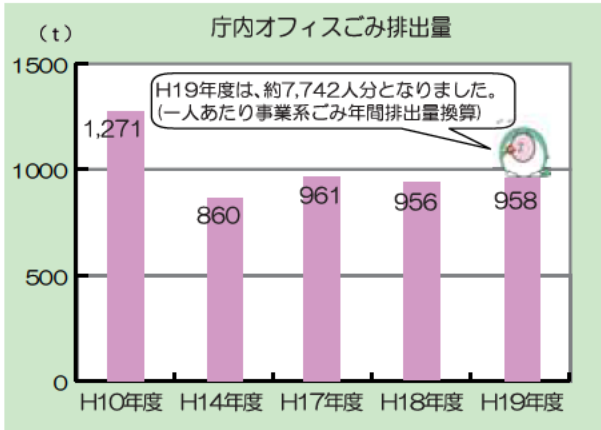


(3) オフィス活動・施設管理

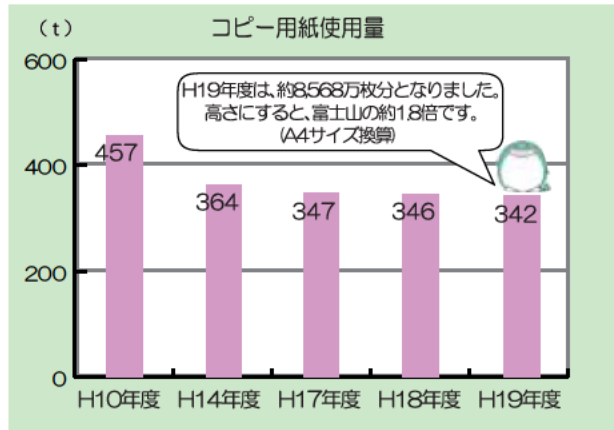
下のグラフは、県の業務の中で大きなウェイトを占めるオフィス活動や施設管理において、環境負荷に取り組んできたこれまでの結果を示しています。

(関連記事:p.3~4。なお、p.3~4では、電気使用量、冷暖房用等の燃料使用量及び公用車燃料使用量は温室効果ガスに換算した数値で示していますが、このページでは、実使用量で示しています。)

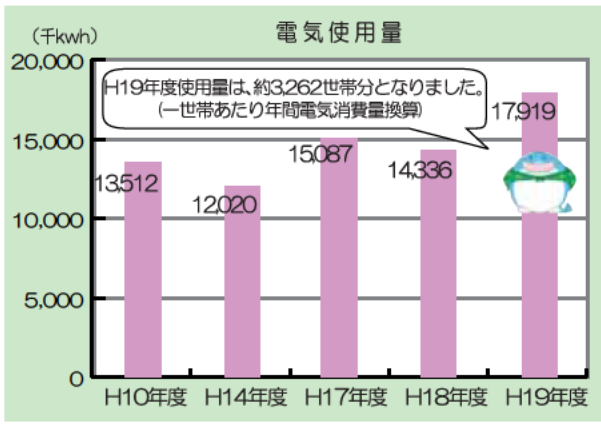
① 庁内オフィスごみ排出量



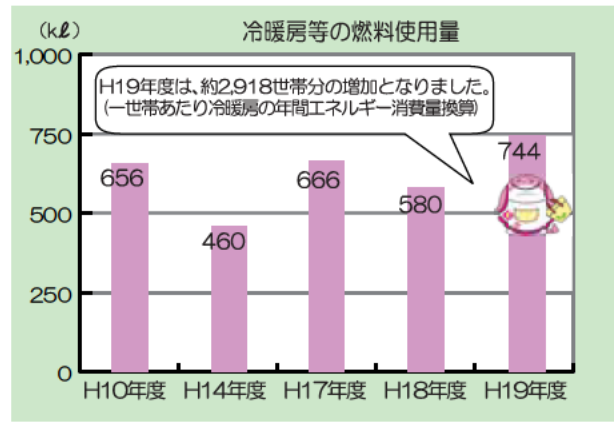
② コピー用紙使用量



③ 電気使用量



④ 冷暖房用等の燃料使用量



注：●H17年度拡大組織：科学技術振興センター（総合研究企画部、保健環境研究部、水産研究部（鈴鹿、尾鷲水産研究室を除く））
●H19年度拡大組織：科学技術振興センター（工業研究部（金属、窯業研究室を除く）、農業研究部（茶業、伊賀農業、紀南果樹研究室を除く）、林業研究部）、病害虫防除所、中央農業改良普及センター、小児心療センターあすなろ学園

INTERVIEW 4

農業研究所 ●総括研究員 地主昭博 ●主事 東伸也

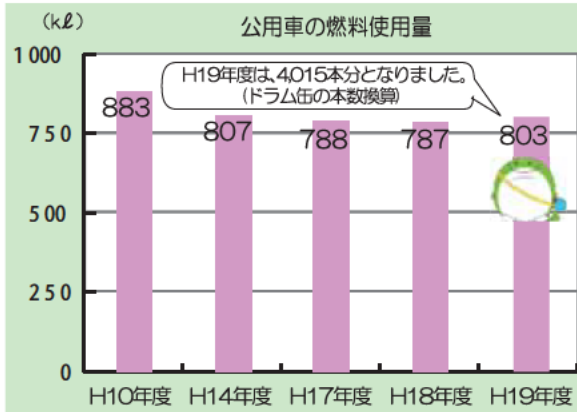
農業研究所では、「産地間競争力を高めるための技術開発」「農産物の安全・安心を確保するための技術開発」「持続性・安定性・効率性を高めるための技術開発」のほか、有益な事務事業として県庁ISOの環境目標にとりあげた油糧廃棄物（食用油製造時の副産物）の活用など「循環型社会実現への貢献のための技術開発」「環境保全のための技術開発」にも取り組んでいます。

一般のオフィスと違い、研究所ということで対応が難しい面はありますが、設備の改善、効率的な運用により電気使用量を削減するなど環境負荷低減に努めています。また、作物残渣の堆肥化など試験に伴って発生する廃棄物の減量も図っています。

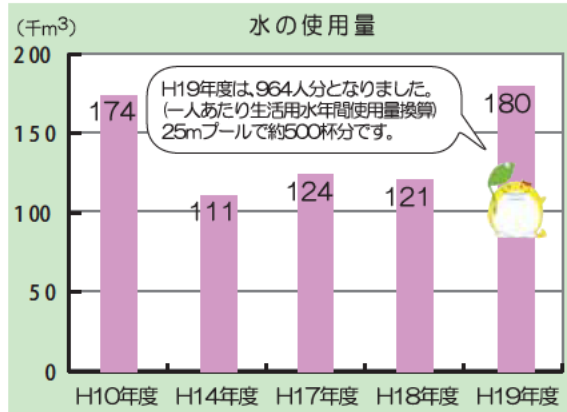


地主昭博 東伸也

⑤ 公用車の燃料使用量



⑥ 水の使用量



注：●H17年度拡大組織：科学技術振興センター（総合研究企画部、保健環境研究部、水産研究部（鈴鹿、尾鷲水産研究室を除く））
●H19年度拡大組織：科学技術振興センター（工業研究部（金属、窯業研究室を除く）、農業研究部（茶業、伊賀農業、紀南果樹研究室を除く）、林業研究部）、病害虫防除所、中央農業改良普及センター、小児心療センターあすなろ学園

(4) グリーン購入の取組

①「みえ・グリーン購入基本方針」の策定

三重県では、ISO14001対象外の組織も含め全組織において平成11年度から物品のグリーン購入について取り組んできましたが、平成13年度に「みえ・グリーン購入基本方針」を新たに策定し、平成14年度から公共工事及び役務についても調達目標を定め、推進しています。また、その他として、「県産材」及び「認定リサイクル製品」についても三重県独自の

グリーン購入の一環として取り組んでいます。

グリーン購入のうち、単価契約物品(☆)の用紙・文具類については、133品目全てが環境配慮型商品となっています(H19年8月現在)。なお、「みえ・グリーン購入基本方針」及びそれに基づき毎年度策定する「環境物品等の調達方針」では、三重県が調達する基本的な品目とその判断基準及び配慮事項を定めています。



三重県では、県産材、認定リサイクル製品についても、独自のグリーン購入として取り組んでいます。

☆：単価契約…単価契約とは日常的に使用する消耗品等を継続的に購入する場合に、物品の規格と単価を事前に決めておき、購入の都度、その購入数量に応じた金額を支払うものです。

TOPICS 5

三重の伝統野菜

今、伝統野菜が伝統の食文化とともに見直されています。伝統野菜については、今のところ明確な定義はなく、地域によっても異なる場合がありますが、主に古くから栽培の歴史があり、その地域の固有の野菜を指すことが多いようです。例えば、三重県では紀州地域の「高菜」、松阪地域の「松阪赤菜」、志摩地域の「きんこ用さつまいも」など6品目が「美し国 みえの伝統野菜」として選定されています。個性豊かな伝統野菜は、栽培時期が限られていたり、手間がかかったり、形や大きさが規格に合わないなど、経済効率は決して良くはありません。しかし、経済効率のみを優先し切り捨てられてきた、伝統野菜を見直して伝統の食文化を後世に伝えていくことは、大切な取組であると考えられます。



松阪赤菜



伊勢いも

注：上記の組織名称は平成19年度のもので、平成20年度は、組織機構改革に伴い組織及び名称を変更しています。